

「なんじゃもんじゃ」という樹木

宮下昇三郎（上田市教育委員会）

Shosaburo Miyashita : On 'Nanja-monja' tree

上田市立塩尻小学校の校門左側の池と、中塩田小学校の樹木園にナンジャモンジャという木の説明文を書いた立て札がある。同じ名前の樹木は真田町、赤井の山の神にも立て札とともに保存されている。これらはそれぞれ、アキニレ、フジキ、ヒトツバタゴという正式な名前をもった樹木であり、植物分類学では正しい名前ではないが、それぞれ謂われのありそうな名前で興味深い。

このナンジャモンジャと名づけられている樹木は中部地方に多く、各県に一つくらいずつあるが、とくに長野県に多い。一般に、その地方には自然には分布せず、しかも大きく成長しているため、地元の人々から不思議がられている樹木にたいして、昭和の初期ごろ流行したナンジャモンジャという俗名がつけられたものであろうか。ナンジャモンジャという名前は不思議で夢のある名前なので、学名とはべつに記録して置きたいと思い、報告した。調査にあたって、長野県の場合は現地調査を、他の県の場合はアンケートによる調査を行った。

1. 長野県のなんじゃもんじゃ

長野県でナンジャモンジャとよばれている樹木とそれが生育している場所は次のとおりである。

(1) 上田市塩尻小学校のフジキ

ここのナンジャモンジャは昭和の初めころ、塩尻小学校の北側にある虚空蔵山頂近くに生育していた木の実生をこの地に移植したものである。この親木はマメ科のフジキで別名ヤマエンジュである。樹高は約10m、目通りの周囲長は150cm、枝の張りは8mである。この場所はフジキの分布において北限ともいわれているが、木の勢いは旺盛で、昭和5年に長野県天然記念物に指定され、現在では上田市の天然記念物となっている。

虚空蔵山の頂には養蚕の神様を奉る蚕影神社という石の祠があり、地元の人々虚空蔵山とともにこの神様を愛し、信仰していたので、お祭りのときはもちろん、普段でもこの山に登り、この珍しい木があることを知っていた。昭和の初め頃、全国各地で珍しい樹木や見慣れないものにナンジャモンジャという俗名をつけて呼ぶのが流行してことがあるので、この樹木もこのようによばれたものであろう。虚空蔵山は山頂付近が極めて険しい山なので修験者や僧侶の修行の場となっていたと思われる。古老の話によると「修験者や僧侶の修行場所の目印として、神様がこの木を植えたのではないか」という言い伝えがあるという。しかし、この山の麓にある東福寺の住職にうかがっても、そのような資料は残っていない。

(2) 真田町本原赤井のナンジャモンジャ

ここのナンジャモンジャは昭和50年2月24日に長野県天然記念物に指定された。この地域の銘峰烏帽子岳への登山道の一つに真田町から本原の赤井を通過して頂上にいたる道がある。赤井の集落から烏帽子岳に向かって、山道を2, 3キロ歩くと、だんだん谷間が狭くなってくる。この道とテレビ塔に行く道の分岐点のすぐ手前の左側に山の神を奉った石の祠があり、そこに、このナンジャモンジャがある。樹高は22m、目通りの周囲長約4.1m、枝張り15-16mの大樹がそびえている。村人が山仕事や炭焼きの行き帰りに山小屋代わりに木陰で休んだ、いわばオアシスのようなところであった。この巨木はこの辺ではあまり見かけないので、人々はこれをナンジャモンジャとよび、誰でも一度は見たいものだと思うような夢のある名前をつけた。

(3) 長野市芋井のアキニレ(無名木)

昭和10年11月22日の朝日新聞の長野版に写真入りのつぎのような記事が載った：「名が

嫌で名がつけられぬ一ヘンチクリンな木ー」。記事によると、この木は長野県上水内郡芋井の戸隠登山道に沿ったところにあり、最初「無名木」という標札が立っていた。木の姿は柿の老木のように、葉はクスの木であったという。直径は約一尺、樹高はやく2丈で田圃の畦に一本だけたっていて、菅平にある高山生物研究所の八木博士が実際にみても名前がわからなかったという。

この木は長野市桜字桜田の武井政孝氏の所有で、現在果樹園になっている当時の田圃の畦にあった。筆者が調べた昭和60年には幹は枯死し、根元で枝分かれした直径は約15cm、高さ3mくらいのものであったが、その木のそばには高さ2m、幅30cmもの大きな石碑が立っていて、当時の人々がこれをいかに大切にしていたかがわかる。この木はアキニレであるが、当時ひとびとはこれを無名木とよんでいた。

古老の話によると、昔、殿様が芋井を通った折りに、ある川のほとりで休み、土手の上にあったこの樹木をみて「この木はなにか」と案内してきた庄屋にたずねた。庄屋もいままで見ただけの木なので困ってしまったが、この地域が「ななし」というところなので、「ななし木」でございます、と答えた。殿様は感心して「ほほー、あの木がななしぎか」といったそうで、それ以後村人はこれを「無名木」と呼ぶようになった。

(4) 南安曇郡安曇村伊勢二宮神社のフジキ

このナンジャモンジャは昭和43年5月16日に長野県の天然記念物に指定された。樹高は約20m、幹の周長は3.5mである。

この木は塩尻のナンジャモンジャにくらべて大きいので、地元の人々が、塩尻のナンジャモンジャが記念物に指定されるなら、当然この木も指定されるべきだといって県に申請して、天然記念物に指定されたものである。筆者が昭和59年と61年に調査したときは、地上3mのところの空洞があったり、枯れ枝もあったりして、枯死する危険があった。

安曇村、大野田の大野分弥さんは明治24年5月20日生まれである。彼の話によると子供のころから神社の拝殿の脇にあって、「喧嘩の」

木と呼ばれていた。

彼の祖父七五三(しめぞう)さんが麻績村だか坂北村だかで仕事をしていた時、土地の者と酒をのみながら、自分の村の自慢話をしていた。ところが、七五三さんには自慢するものがない。そこで、ふと「お前たちが見たことも聞いたこともない、大木が俺の村にはある」といってしまった。「ほう、何という木だ」と仲間がしつこく聞くので、苦し紛れに「ナンジャモンジャという木だ」といった。それ以来、この木を「ナンジャモンジャ」とか「喧嘩の木」というようになった。

このナンジャモンジャは昭和57年に同神社の氏子大野公平さんが、その若木を学校の庭に植えナンジャモンジャ二世とした。

(5) 北佐久郡浅科村大字矢島字天徳のバラモミ(ハリモミ)

このナンジャモンジャは宝泉寺の所有地にあり、昭和44年5月15日に長野県の天然記念物に指定された。和名はバラモミで、樹高は19m、目通りの周長は4mである。分布のうえで注目される。

佐久のバラモミはこのほか佐久市大沢にも生育しており、やはりナンジャモンジャとよばれている。ここのバラモミはお寺の岡の中腹にある巨木で、村人の心のよりどころとなっていた。ナンジャモンジャとよばれるようになったのはおそらく昭和の初めころであろう。しかし、残念なことに、この木から5mくらい下のところにあった農業用水を改修したときに根を何本か切ったことと、川底や側面をコンクリートで固めた影響で、だんだん枯れ枝が目だつようになった。昭和60年にはサルオガセがつき枯死寸前であった。宝泉寺の奥様が「ナンジャモンジャが枯れてきているのは、非常に残念なので、いまその2世を育てています」といって、10数本植えてある畑に案内してくれた。

2. 日本のナンジャモンジャ

長野県以外のナンジャモンジャと呼ばれている樹木について文書で調査した結果は以下のようになった。

(1)宮城県塩谷市一森山塩釜神社のタラヨウ

昔、神前でこの木の葉をあぶり、吉凶禍福を占った。

(2)福島県のアブラチャン

(3)埼玉県東松山市筈弓町2-5-14 筈弓神社のイヌザクラ

(4)千葉県香取郡神崎町本宿のクスノキ

大正15年10月20日国の天然記念物として指定。神崎の大クスとよばれている。明治40年の火災で類焼したので幹の7mの高さで切断したが、根元から萌芽し、現在は直径1.2m、樹高20mとなっている。水戸光國(義公)が1674年(延宝2年)この神社に参拝した記録がある。この時義公が「この木はなんちゅうもんじゃ」とたずねたときからナンジャモンジャとよばれるようになったといわれている。

(5)東京都明治神宮外のヒトツバタゴ

大正3年に天然記念物に指定されたが昭和8年に枯死したので、指定が解除された。名木「ヒトツバタゴの碑」がある。

(6)神奈川県逗子市沼間神武寺のホルトノキ

樹高20m、幹の周長2m。樹齢400年。

(7)神奈川県海老名市本郷星ヶ谷3881のハルニレ

樹高20m周長6.6m、樹齢300年。寛永年間に半井ろあんがこの地に移植したものとされている。県の天然記念物に指定されている。

(8)神奈川県小田原市飛乱地のバクチノキ

昭和16年10月3日に国の天然記念物に指定された。

樹高20m、根回り6m、幹の周長6m。この近くの新海蔵寺近くにも2本のバクチノキがあり県の天然記念物となっている。

(9)新潟県中魚沼郡十日町のアキニレ

(10)新潟県長岡市福戸町のイヌシデ

(11)新潟県刈羽郡刈羽村下高町のイヌグス

(12)新潟県南蒲原郡下田村のハルニレ

(13)山梨県西八代郡芦川村鶯宿峠頂上のリョウメンヒノキ

ヒノキとコノテガシワの中間型の樹木で牧野富太郎博士が命名した。

樹高18m、根回り、4.7m、目通り3.45m。

(14)岐阜県関市西本郷字名無木のトネリコ

根元で4本に分かれていて、それぞれ、1.75m、1.55m、1.51m、0.99mである。

(15)岐阜県白山神社のヒトツバタゴ

昭和18年2月19日国の天然記念物に指定される。樹高21m、根回り、1.6m。

このほか6カ所のヒトツバタゴが国の天然記念物に指定されている。

ヒトツバタゴは「一つ葉トネリコ」のことで、花が変わっていることからナンジャモンジャとよばれるようになった。また、ロクドウノキと呼ばれたのは江戸の六道辻(現在の港区北青山1丁目)に植えられて珍しがられた樹木と同じであることによる。

(16)愛知県犬山市池野西洞のヒトツバタゴ

(17)三重県熊野市木本町立木本小学校のマルバチシャ

牧野富太郎先生が見えたとき、何の木か不明だったので、ナンジャモンジャといわれるようになった。

(18)鳥取県のイヌマキ

鳥取市内で庭木として植えられているが、なんの木かわからないので、チンプンカンプンの木といわれている。

(19)鳥根県松江市殿町一番地(松江城内)のヒトツバタゴ

(20)愛知県松山市丸の内 東雲神社のヒトツバタゴ

松山市の天然記念物に指定。樹高15m、幹周庁7cm、樹齢50年

(21)福岡県朝倉郡佐倉町大字石成り字古墳塚のタブノキ

樹高12.6m、周長3m。

(22)長崎県上県郡対馬町大字鰐浦字在所陽のヒトツバタゴ

昭和3年1月18日に国の天然記念物に指定。

この木は鰐浦の入り江を囲む丘陵地に自生していて、5月ころ純白の花を開き、波の静かなときは海面に白く映えるので、地元では「ウミテラシ」とか材が硬いので「ナタオラシ」とかよんでいる。